

笑顔礼讚西東

源流俳句会様(千葉県・四街道市) 2~3

新潟川柳文芸社様(新潟市・中央区) 3~4

降矢政治様(東京都・国分寺市) 5

投稿作品 6~10

心に残った作品 10

詠み人スクランブル

(楽しみにしている春の食べ物は何?) 11~12

ニユースあれこれ 13

お客様の「リレーエッセイ」 水野喜子様 14

新潟ぶらり／新潟空港／Crable 蔵織 15

詠み人の「リレーエッセイ」 俳人 高田正子様 16

4 April Vol.55

落窪物語

詠み人応援マガジン
詩歌俳柳壇ニユース
楽又

この度の東日本大震災で亡くなられた方のご冥福をお祈り申し上げ、被害にあわれまされた方々に謹んでお見舞い申し上げます。

連日見聞きする、幾重にも連なり幾層にも堆積する悲しみ。何をどうすることから始めたらいのか。果たして何かを始めようという気持ちになる日がくるのか。被災された方々の絶望を理解することは、私たちにはとうていできないに違いない。

27日、日帰りで石巻に手伝いに行くといったら、瞬間のうちいろいろなものが集まった。この惨状に誰もが何か協力をさせてほしい、少しでも自分のこととして悲しみを共有したいと思っている。

だからどうか遠慮なくいつてくください、今望んでいることを。今は無理でも、この悲しみから前へ進む力をいつか得られるように、みんなが自分のできることをしながら祈っています。

「ほーんと、ありがたいつちゃ」と、遠慮がちにいう強くて賢くて温かい東北の人たち。いつかくる春。一緒に支えたい。

(木戸敦子)

温古知新⑩

落窪物語

今回の「温古知新」では「落窪物語」をご紹介します。

「落窪物語」は、作者未詳、十世紀末頃に成立したとされる物語。全四巻。題名の「落窪」は、主人公の姫君が住まう部屋の名前に由来します。さて、そのあらすじは……。

中納言(忠頼)には北の方(諸大夫女)との間に三男四女がいました。また、皇室の血筋の女性との間にも美しい姫君がいましたが、この姫君は母親が亡くなったため、北の方に引き取られます。北の方はこの姫君を寝殿の落ち窪んだ部屋に住ませ、召使い同様の仕打ちをして虐待、人々には「落窪の君」と呼ばれます。姫君には後見の女房阿漕がいました。その阿漕の夫、右近少将道頼の乳母子帯刀から、姫君のことが右近少将へ伝わります。やがて、右近少将は阿漕の手引きで姫君と契りを結びました。それを知った北の方は姫君

を塗籠に閉じ込め、六十余りの好色な老人・典薬助と結婚させようとしませんが、姫君は阿漕の機転で難を免れ、少将に救出され、幸せな生活を手に入れます。その間、少将は北の方への復讐として、四の君と面白の駒という愚者・兵部少輔を結婚させたり、北の方一行の清水詣でや賀茂祭の見物を妨害したり、中納言が移ろうとした三条殿を先取りしたりします。

その後、中納言は姫君と対面して事の顛末を知り、和解。少将は中納言のために七十の賀を催したり大納言に推挙したりし、北の方にも大納言死後の屋敷を与えます。また、四の君は筑紫の帥と結婚。少将はますます栄達し、姫君は三男二女をもうけ、一夫一妻を貫き幸福を極めました。

この後、阿漕は典侍となり、なんと、二百歳まで生きたそうです！

写実的な人物描写は「源氏物語」にも影響を与え、「枕草子」にも言及。継子いじめの筋を軸に、当時の貴族社会を描いた物語として評価されています。日本版の「シンデレラ」とも言える物語です。

(古川久美子)

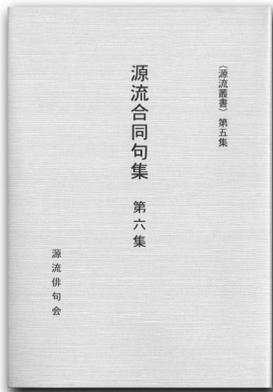
源流俳句会

主宰 小出治重さま

(千葉県・四街道市)

去る2月5日(土)、源流俳句会の本部句会にお邪魔してまいりました。今年81歳となった小出主宰は、同人の句会である土屋句会、初心者を対象とした市民俳句講座のほか、少年少女俳句の指導にもあたっておられます。

都心から40km圏内、首都圏のベッドタウンとして発展してきた「四街道市」は、梨・落花生などの生産が盛んな近郊農業地帯でもあります。名前の由来は、現在の「四街道十字路口」に「北 成田山道」「南 千葉町道」「東 東



▲通巻第314号「源流」3月号と源流合同句集第六集

▲現代俳句協会理事ほか多くの要職にある主宰の小出治重さん



金道、馬渡道」「西 東京、船橋道」と彫つてある長方形の道標石塔が建ち、4つの街道が交わっていることに由来しています。

この町で「人間完成への俳句」をめざし「少年俳句の推進発展」を標榜しながら歩み続けた「源流」は、本年3月で31周年。本日22名出席の本部句会では、当季雑詠の2句提出。主宰のお話と連絡事項に続き52句が披露され、その後すぐに作者は名乗ります。

「皆さんレベルは上がっている。ただ、俳句は実力勝負だから1年で上達する人もいれば10年経つてもだめな人はだめ。同人・会員の別なくキャリアはあまり通用しない。遠慮なく指摘するので、すべて愛情だと思つて受け止めてほしい」の言葉に続き、本部句会では主宰の講評を中心に展開されます。

冬富士や見知らぬ人と眺め入る三重子
上五の捉え方が効いている。「見知らぬ人」の表現は手垢がついているが、感動のあまり気付いたら見知らぬ人と見ていたということ。対象の妙というか、

そこに成功の要因が。

立春に介護施設の母ありて 峰子

胸打たれる句だが「に」がちょっとま
ずい。「や」で切らないと下の具体性が
生きてこない。因果関係が強すぎるし
「に」とする理由も見つからない。具体
性があるだけにもつたいない。

参道の托鉢僧の凍てにけり 久仁子

極寒の並大抵ではない寒さを詠つて
いる。実際にはあり得ないが、思い
切つて詠つたところと「り」ではなく
「に」の断定がいい。俳句は意外性がな
いと平々凡々になる。言葉が短いから
マンネリになりやすいのは宿命。類想
類句はダメといつても、真似はいけない
が気持ちは同じところから入っている
と思う。

紅の入日にも言ふ息白し 加代

ユニークな見方で新しさがある。紅
の入日がいい。普通は夕落暉や落日で
もつていきがちだが、独特の個性が出
ていておもしろい。

一輪や目の追ふ梅の又一輪 恵美子

リフレインが効いている。安易では
なく、考えた末のいい意味での技法が
出ている。言わずしていうテクニクも
よかつた。

節分や大三角形天に座し ひろし

表現も内容もスケールの大きい句。
この辺りの個性をぜひ伸ばしていつてほ
しい。これはよかつた。ほめすぎかなあ
(笑)。作者「ほめすぎだと思います。」

羽根たたみ言の葉遺し蝶凍てり 基裕

言の葉は言葉でいいのでは？ 蝶が言
葉を残すわけがないというのは、俳句
を知らない人。俳句を覚えた人間は
言葉をあえて蝶につける。言葉を残し
て蝶は逝つたのだという、間合いの捉え
方、迫力がすばらしい。よくできた。

沢庵の音で健康測りおり つとむ

リアリズムすぎるがこういう句もま
たいいんじゃない？ ただ、いつもいうが
俳句は詩情が大切。事実を伝えるだ
けでなく、詩情があつてこそ俳句。
そここのところを考えてほしい。

浅春や灰降り積もる友の町 千里

情感が出ています。悲惨さを強調する
と表現過剰でまずいですが、これはさらり
と言つてのけつ内容的には大変だろう
な、ということがわかる。直接的に言



わなないところがいい。それでこそ詠嘆の「や」が効いてくる。

凍る朝白き会話の通学童 徹

なかなかおもしろい句。句によりけりだが、この人は非常に冴えた句を作る。捉え方が斬新だから、失敗することもあるが成功する率も高い。ただその差が激しい(笑)。でもそれも個性だから私はいいと思う。白き会話がヒット。これを息白しするとダメ。

八十過ぎておまけの年の福笑ひ 香

川柳は詩ではない。詩ではないからダメということではなく、川柳は人生の裏表を巧みに詠う。そういう意味で、川柳との違いが難しいところ。いろいろ考慮されたいと思う。

*本日出席の方の作品より

- 涙そうそうニユースを眺め冬の夜 昌宏
 十粒ほど鬼も内なり年の豆 隆一
 冬夕焼高所作業車天を突く 治生
 待春の片雲追ひて隅田川 都美
 風の風を求めし旅の空 幸
 救急車近くて遠し凍てし夜 季衣
 梅咲きて隙間をくぐる落暉かな ちか子
 水仙の黄色だんだん好きになる 美代子
 青き芹細き流れをせきとめて 登喜子
 冬霞十年先を話し合ふ 久子
 暮しあるどの窓辺にも春光 溥子

「作者にしてはかなりの進歩」「八方破れは困る、まとめていかないと。でも進歩した」「静かにして。肝心なところで騒いだら作者に失礼ですよ」等、講評は甘口ではないが、作品だけでなく、まずその「人」を見ていることがわかる。

俳歴60年にして「私はまだ初心と思っている」と、創立以来の志を熱く保ち続けている古武士のような主宰。第七句集のタイトルは『無限界』。これからは初志貫徹、徹頭徹尾、一生勉強を体現していかれるに違いない。そして会員の皆さんもこの主宰のもと、ますます腕を上げることだろう。

(木戸敦子)

▲熱心に主宰の話に聞き入る会員の皆さん



新潟川柳文芸社

主幹 真壁芳郎さま (新潟市・中央区)



去る3月20日、新潟市中央公民館で行われた新潟川柳文芸社の3月例会にお邪魔しました。

冒頭、全員でこの度の東日本大震災で亡くなった方々に黙祷を捧げ、賞品相当額を義援金として寄附する旨報告されました。真壁主幹から「今盛んに流れている広告、心遣いも見えないけれど、心遣いも見えない。これはジャンルレベルの作詞でも知られる宮澤章二さんの詩ですが、川柳も誰にでも見える言葉で表現することが大切」とご挨拶があり、早速席題2題、宿題5題の披露へとつづります。



▲通巻第三四〇号の「川柳にいがた」3月号



席題「波紋」早川一水選
 三才

お隣の音が急かせる雪おろし 英子
 広がった波紋迂闊な語に怯え 宏
 さざなみの波紋が温いボランティアスミエ
 ※「三才」：上から「天・地・人」のこと。
 五客はスペースの関係で割愛させていただきます(自由吟は除く)。

席題「減る」倉田文夫選

年金がきて孫が来て減つてゆくかおる
 年金がこつそり減つていた不安 よしを
 脳ミソが減る筈ないが物忘れ はじめ

宿題「多忙」二人選 夏井スミエ選

久しぶりに昔のイケメンの方々に会ったら元気が出た。取られなかった方は私より頭のいい方だと思ってください(笑)。

お茶づけで胃袋みたく決算期 美留
 スリッパを響かせ医者腕まくり 榮子
 三食をかき込んで出るボランティア 一水

宿題「多忙」二人選 金田よしを選

山登りの際にお世話になった東北の方の顔が思い浮かんだ。涙腺が緩みっぱなし。何とか一日でも早く復興してほ



▲眞壁芳朗さん



▲高木かおるさん



▲齋藤和子さん



▲佐藤良佐句さん



▲夏井スミエさん



▲早川一水さん



▲宮村桂路さん



▲大塚一由さん



▲三宅得三さん



▲能登としおさん



▲金田よしをさん



▲倉田文夫さん

しい。
 発覚の嘘へ舌打ち忙しない 英子
 よく言うよああ忙しい立ち話 得三
 子宝に恵まれ過ぎた主婦の朝 桂路
 宿題「迫る」二人選 佐藤良佐句選
 懇親会が「迫って」おりますのでさう
 さといきます(笑)。
 民主化を迫る瞳へ催涙弾 東二
 戸口まで老々介護が呼びにくる きさく
 人間に決断迫る大自然 一水
 宿題「迫る」二人選 能登としお選
 水一杯次が出番の舞台裏 得三
 真実に迫る自負持つ記者のペン 和子
 虎の威を借りて攻め込む陣羽織 一由
 宿題「レンズ」二人選 齋藤和子選
 原発のことが急がれる。エネルギー
 問題を考え直す機会にしなければと
 思う。生きている間、思いやりを持っ
 て生きたいとつくづく思った。
 花嫁へレンズが曇る父の情 としお
 心まで写るレンズを母は持つ 英子
 性善説街のレンズが信じない はじめ
 宿題「レンズ」二人選 三宅得三選
 初孫にシャッターチャンス付きまとい 靖子
 告白はレンズを拭いてからにする かのる
 内視鏡がんとレンズが初対面 芳朗
 宿題「人生」二人選 高木かおる選
 昭和20年長岡に疎開したら空襲に
 遭い信濃川の中から燃えるわが家を見
 ていた。新潟に帰ったら新潟大火で全

焼、2カ月ほど段ボール生活を。3軒
 目もダメにし、多額の父の借金を返し
 たと思ったらガンで大病。人生普通に
 幸せなのは3年か5年。だから今10
 年も幸せな生活をしている人は反動が
 大きいですよ(笑)。カラオケに行くと
 新潟もんですから「い」と「え」が混じ
 る。人生色々、人生エロエロ...というこ
 とで、はい披露します(笑)。
 我が人生変えたあの日のあみだくじ
 人生を語るに軒高すぎる きさく
 英子
 人生の近道だった回り道 芳朗
 宿題「人生」二人選 大塚一由選
 ティッシュペーパー2つ買ってきたら、
 買い占めだと高校生の息子に言われ、
 返却してきたという母の話を読んだ。
 立派な若者も多く、未来は明るい。
 波乗りが下手で人生平のまま きそ
 辛抱の二字で人生切り抜ける 宏
 人生の縮図を皺に刻まれる 桂路
 自由吟 眞壁芳朗選
 五客
 病名は聴かずに握手して帰り きそ
 見舞い客帰ると痛い顔をする 一由
 妻の頬突けばセクハラですと言う 薫
 補助金のおむつを当てている辛さとしお



▲本日の最高得点者 田澤宏さん

大地震初めて抱いた妻の肩 一水
 三才
 そつと乗り片足上げる体重計 かのる
 物言わぬ夫がストローブつけてくれせつ
 足して二百恋が芽生えた車椅子 良佐句
 ビッシリ2時間の披露の後は学習タ
 イム!宮村桂路さんの「穴を埋めたい
 人いっぱいいるんさね」と、嘶家のよ
 うな軽妙洒落な語り口で川柳を楽し
 く体得していく。
 ぜひ皆さんも挑戦を!
 課題「メッキ」より
 ①□□のメッキ新婦の御登場
 ②肩書きの□□でボクを光らせる
 ③□□のメッキが剥げる安売り場
 ※答えは最後に
 ■各選者は、最初に一言冗談を入れ
 ては笑いを誘い場の雰囲気や和らげ
 る。皆さん静かに披露を聞くのみで選
 評もなく戸惑ったが、この会ではまず
 披露で耳から句の良さを感じ、翌月の
 柳誌で、目を通して句の吟味を深める
 のだという。そして、多くの笑いは没
 句に対する供養、次へ生かすための笑
 いだとい。芸達者の面々に大いに笑わ
 せていただき、新潟人のしよしがり
 (恥ずかしがり屋)の性質が見事に覆
 された。(木戸敦子)
 ※答え
 ①「極上」他には品格、金銀、整形、脚色、伝統、
 再婚...等があげられていました。
 ②「羅列」他 威厳、おかげ、名刺、社名...等
 ③「奥様」他 置物、特売 促成、王冠、上品、名
 店...等



▲以前は第一線の都銀銀行マンだった降矢さん

▶最新の「東京文芸125号」
「お小遣い程度だが応援したい」と表紙のペンは
女子美の学生に依頼。



■東京文芸のなりたちから—
前身は、俳句が中心の「都民文芸」という雑誌です。退職後、同人誌の会に入りたいたいと思っていたところ、たまたま夕刊で見かけたのが「都民文芸」で

毎月、弊社でお手伝いしている「東京文芸」代表の降矢政治さんに、作品を発表する大切さ楽しみ等、お話を聞きました。



した。電話をすると「明日、会合があるのよ」とのお話で、足を運ぶことに。正直、俳句には興味がなかったのご辞退を…と思ったところ、エッセイを書く人もいるということで入会しました。しばらくしてエッセイ派と俳句派が、2つに別れ21世紀が始まる2001年の1月に創刊したのが、エッセイと現代詩、小説でスタートした「東京文芸」です。

■会員の作品発表の場なのです

コツコツ書いている方も、このように発表の場があることを知らない人は多いと思います。昔書いた作品を少しずつ分けて掲載したいという方もいれば、毎月はしんどいので出来た時に送るという方もいます。いずれにしても、毎月国会図書館などに納本してありますので永久に残ります。本に掲載されることで、自分が亡くなっても例え孫が「おじいちゃん、こういうものを書いていたんだ」とわかるわけです。また、同人誌に発表することで多くの人に知られる機会も広がります。

■広がりですか？

文芸春秋から毎年刊行されるプロアマ交えての「ベスト・エッセイ集」の原稿募集があった際、「東京文芸」の2001年5月号に掲載の「足の指」を提出したところその年の入選作品に。翌年も会員の十勝花子さんの作品が入選し、以後「東京文芸」の名が同人誌の仲間に広がりました。

■井上ひさしさんの次に降矢さんの作品が掲載されていますね！

趣味で書いていたとしても、同人誌やその他の出版物などに掲載していな

いと応募の対象にならないのです。活字になって世に出ると誰の目に触れるかわからないもので、先日は突然中学校の教科書業者から、掲載の「使用許可願」が届きました。他にも試験問題に使用を等、掲載から10年経ってもこのような依頼があるのです。残すことの大事さを感じますね。

■入会の条件は？

ありません(笑)。入会金、会費一切なし。自分が書きたいときに投稿料を支払うだけ。皆さんの熱意と運営に対する気持ちでやっています。年齢は90代から高校生、地域は北海道から沖縄、職業も牧師、医者、タレント、主婦と様々です。ただ、よく勘違いされるのはエッセイの書き方を教えてくれると思う方がいること。若い頃文学部に入っていたとか、一応基礎が出来ている人が対象です。ワープロ原稿は1枚1000円、400字詰原稿用紙3枚で1000円、入力は5枚まで1000円なので9枚の原稿を掲載する場合は3000円+2000円=5000円が投稿料となります。投稿すれば1冊は無料、他は1冊500円で3冊だと1000円になります。

■皆さんお上手なのでしょうね

毎月書くので間違いなく腕は上がっていきます。書くこともそうですが、他人の文章を読むことも勉強になります。情景の書き方が陳腐だとか、さつきも同じようなことを書いてしまっただとか、書き手本人にはわからなくても読み手にはわかります。ですから、一度ご自分の作品を投稿してみてください。せつかくの作品に発表の場

がないのもつらいことです。「東京文芸」では安い費用でその機会を提供していますので、ぜひ活用ください。次に続く楽しみが広がります。

★書いたものを誰の目に触れることもなくただ記録として残す、それもありだろう。でも、美術にしろ、音楽にしろ、それを受け取る人がいて初めて、自分にとつての表現するそのことの意味が深まる。どこかに足を運ばなくても、いながらにして全国の方と誌上で交流できる楽しみ。降矢さんいわく「書く人は新聞やテレビを見ていても、来月は何を書こうか」という意識が働くそう。最近物忘れが激しい。一回きりでもいいのなら、脳の活性化のために「皇女敦宮」なんて夢物語を投稿してみようかしら。(木戸敦子)



▲降矢さんと十勝さんが2年連続入選した文芸春秋「ベスト・エッセイ集」

★会員募集中
お問い合わせ／〒185-00035
東京都国分寺市西町4-30-29
降矢政治さま
☎042-575-5764まで

投稿作品

※ 今月も、沢山のすばらしい作品を投稿していただきました。今後も、みなさまの投稿をお待ちしております。次回掲載分は5月16日(月)締切です。

俳句

- 1 初日の出竹はしなりて松に添ひ
荒川都美(千葉県)
- 2 道の駅缶コーヒーで暖をとる
水落重武(新潟県)
- 3 草も木も色なき庭の梅一輪
檜山とり子(東京都)
- 4 記憶より母校は小さし竜の玉
小西四郎(東京都)
- 5 柚子はじきもどりにし柚子を抱きしめる
栗原啓子(埼玉県)
- 6 卒業子送りて教師教室へ
伊藤修敬(三重県)
- 7 これやこの湯豆腐吹いて万太郎
渡辺茫子(千葉県)
- 8 長閑なる猫柳咲く川辺かな
須澤重雄(長野県)
- 9 寒中見舞余白に追伸子の安否
菊池シユン(青森県)
- 10 北風吹き耳に棲みつゝ怒涛音
渡辺嘉幸(東京都)
- 11 春立つや鉢の毬藻は浮びけり
百花清(埼玉県)
- 12 音楽が流れる朝春近づく
小西建治(千葉県)
- 13 母の忌の在りしを映す春障子
福岡悟(東京都)
- 14 山脈のほどの高さや大根掛
三津木俊幸(千葉県)
- 15 忙しくワイパー動く春の雪
秩父豊仙(神奈川県)
- 16 春風のやうな主治医と長話し
平賀田鶴子(愛知県)
- 17 石仏の並ぶ坂道寒月光
佐瀬チエ子(神奈川県)
- 18 生れし孫の顔みえそな初電話
藤田三四郎(群馬県)
- 19 民宿の暮れて夕日の木守柿
井上静夫(栃木県)
- 20 赤紙はおなじにも来たと建国日
富樫和子(山形県)
- 21 山一つ越せばふるさと春の雨
三ツ木宗一(東京都)
- 22 猪の耕す畑や梅薫る
佐野和彦(静岡県)
- 23 春寒しどこで狂ひし吾が余生
吉村筑紫(埼玉県)
- 24 晩学の椅子の二つや山笑ふ
小野寺裕子(宮城県)
- 25 一山は霧氷曼陀羅立石寺
沢田稲花(山形県)
- 26 雪うさぎ今年の干支に祈るのみ
佐藤佑子(福島県)
- 27 知りつつも子に担がれる万愚節
星野三興(新潟県)
- 28 春立つ日茨木のり子へ文書かな
小島岳青(新潟県)
- 29 夜桜に深き闇あり愁ひあり
井原穂子(東京都)
- 30 目映くてはにかむ笑顔ゆきまとう
有坂馨園(福島県)
- 31 火の山の怒り鎮めよ春の雪
橋本世紀男(東京都)
- 32 会の名はやよいサロンという花見
大橋恒次(新潟県)
- 33 面差しし異なる地蔵下萌す
乾久子(滋賀県)
- 34 ブロンズの裸を伝ふ春の雨
津田忠彦(岡山県)
- 35 春場所や中止の活字追いにけり
資延貢(香川県)
- 36 もう誰もみない校庭雪だるま
梶鴻風(北海道)
- 37 来し方に思ひめぐらし春の月
青木ケン子(埼玉県)
- 38 湯気立ててハーモニカ吹く独りかな
小林隼美(山形県)
- 39 魚市場寒鰯活きて跳てをり
内河邦久(東京都)
- 40 土手長し春風といふ送りもの
水落清子(東京都)
- 41 雪降りり子はみちのくの人となる
名取美枝子(千葉県)
- 42 手を合はすバレンタインのチョコ供へ
藤沢樹村(東京都)
- 43 一途とはこんなことも猫の恋
紺谷睡花(東京都)
- 44 浮雲に機影光りて寒明けける
堅田秀子(東京都)
- 45 春の蚊の打つに忍びず吹きとばす
栗原黎(群馬県)
- 46 啓蟄や生きる力を賜りぬ
忍正志(兵庫県)
- 47 にごり湯の湯槽にあふる夕雉子
尾崎良雄(三重県)
- 48 扁額の鳩に弾痕寒ざくら
関谷秀二(愛知県)
- 49 あなたにもあげるダイヤモンドダスト
湯浅芳郎(岡山県)
- 50 ぼうたんの芽立ち地軸の軋む音
川口襄(埼玉県)
- 51 コンビニへくつ音光る寒さかな
大場きよし(宮城県)
- 52 夏蜜柑赤子のように微笑めり
小井寒九郎(三重県)
- 53 外来の妊婦まどろむ春隣
濱崎祥子(鹿児島県)
- 54 病む夫の粥に添えたる寒卵
佐野しづ子(愛知県)
- 55 ふらここや腹の立つこと無き日和
美濃部紘三(新潟県)
- 56 茶師の手に新茶の香り滲み込みて
布目雅之(埼玉県)
- 57 梅一りん万葉人となり眺む
神作洗江(埼玉県)
- 58 ひとり居の生活たつきになれて春の風
小林紀美子(東京都)
- 59 初茜越後三山一望す
竹本美美子(新潟県)
- 60 月光の流水群や鯉解化す
新谷雄彦(広島県)
- 61 星に吊る夢明日への花衣
橋本良子(埼玉県)
- 62 銀世界俳句の詩に命燃ゆ
五十嵐睦博(新潟県)
- 63 酒蔵に酒の息聞くのちの月
中嶋清子(佐賀県)
- 64 寒卵土のふくらむ音がする
木山杏理(東京都)
- 65 棒の如くダイヤモンドダスト浴びいた
油谷郷史(兵庫県)
- 66 薄氷の杓とらえたり手水鉢
仁藤ひろじ(埼玉県)
- 67 修二会の籠松明の竹を取る
勝田久美(大阪府)
- 68 白い梅けなげき咲きし紅梅も
五味田幸夫(神奈川県)
- 69 机だけ残る子の部屋日脚伸
竹内ハヤ子(埼玉県)
- 70 百姓の気を充電す梅の花
寺岡文生(静岡県)

- 71 寒染めや八十媪命染む
山田幸代(兵庫県)
- 72 早咲きの白梅小さしじふ余輪
川崎洋吉(福岡県)
- 73 旧友と散歩の小道路の臺
齋藤心仙(千葉県)
- 74 春近し拭き跡残る硝子窓
小林七重(新潟県)
- 75 霧しぐれ車の窓にしぐれけり
山崎紀久江(福岡県)
- 76 若水を噴井に求め宝前に
江見太郎(岡山県)
- 77 幸せな夫婦三寒四温かな
西口東治(大阪府)
- 78 啓蟄やかわりの居らぬインコの死
高杉杜詩花(北海道)
- 79 生命線長き手のひら寒桜
副島加代子(宮城県)
- 80 門前をゆくバレンタイン献血車
炭崎博(滋賀県)
- 81 一点で恋を呼んでる寒ひばり
村岡盛英(群馬県)
- 82 春光に自由奔放稚魚の群
野村牟人(東京都)
- 83 山笑ふ脱ダム嗤ふ樵の森
大竹憲弥(新潟県)
- 84 待望の球趣わくわく春を待つ
田中昶(鳥取県)
- 85 碑の歌口ずさむ春立つ日
北嶋八重(京都府)
- 86 冬ざれや山の傾斜の墓ひかる
杉村美保子(岩手県)
- 87 洗い立て布巾に春の匂ひして
山本直子(大阪府)
- 88 我が齢愛しき母に近づきぬ
河合ヤスエ(大阪府)
- 89 金婚の妻に従ふ冬籠り
浦橋渴雪(兵庫県)
- 90 餅花や煎餅店に鹿たむろ
居原田連星(大阪府)
- 91 ランドセル何度も背負い春を待つ
長峰正晴(千葉県)
- 92 蜜柑むき袋の数だけ幸数ふ
藤本由美子(兵庫県)
- 93 支えあい生き来し幸や年の豆
田島星景子(宮城県)
- 94 老一人今は使はぬ大火鉢
早矢仕邦夫(愛知県)
- 95 うこんこう澎らみて天うすみどり
関根千恵(埼玉県)
- 96 春愁やナポリも見ずに死ぬ私
村松知津子(大阪府)
- 97 旅立ちし母に道あり冬銀河
春口蓮男(静岡県)
- 98 咲き盛るま昼の梅の翳なごす
廣瀬喜代子(岡山県)
- 99 淡雪や俵夫の行き交うねねの道
中田文字(大阪府)
- 100 花の寺母の通ひし稽古道
長谷川ふさを(新潟県)
- 101 雪国の屋根の鋭角人丸ろし
林克(福島県)
- 102 清明や雨には雨のころとして
浜田蛙城(静岡県)
- 103 みかん好き目白番の毎日来
青木凉子(埼玉県)
- 104 乳母車止めて園児の遊戯見る
木下精(大阪府)
- 105 どの足も布靴で揃ふ日向ぼこ
谷川利子(愛知県)
- 106 耳をかす話に冬帽脱ぎにけり
坂本正夫(千葉県)
- 107 人生のおまけの齢豆を打つ
原田麦吹(埼玉県)
- 108 春日遅々直角の腰坂を行く
有田裕子(北海道)
- 109 弓なりのヌードを纏う春の雪
椋本望生(大阪府)
- 110 こと更に初更が淋し雪ふる夜
寺尾令子(東京都)
- 111 みをつくし淀の面あふる花の影
矢野絹枝(東京都)
- 112 無人駅車両に春の風の入る
星一子(神奈川県)
- 113 軒水柱鉄格子如解けがたし
伊藤梅子(岩手県)
- 114 春寒の唇盗むけやき坂
堀井醉人(茨城県)
- 115 今日もまた梢をゆする伊吹おろし
吉野成行(愛知県)
- 116 襦袍着て夢に笑む父忌の近し
早川レイ子(新潟県)
- 117 甲斐甲斐しナースの眸に春の笑み
渡邊昭雄(東京都)
- 118 母凜と天寿まとう黄水仙
大久保アヤ子(東京都)
- 119 コンテナの長さつらなり春のせて
岩永登茂子(大阪府)
- 120 温もりて川面キラメク露の臺
早川述史(愛知県)
- 121 胸の激凌ふばかりに雪解風
橋間他家男(千葉県)
- 122 干大根ラインダンスの始まりぬ
藤田照代(岡山県)
- 123 初雲雀昨日と違ふ陽のにはひ
大曾根育代(埼玉県)
- 124 踏むまいと運ぶ歩みのすみれ草
山川みどり(山形県)
- 125 記念日に合わせて咲くや梅真白
岡本恵(茨城県)
- 126 春北風おっと進まぬ棒立ちに
福田和子(東京都)
- 127 流れ行く雲をうつして冬の川
堀田寿美子(北海道)
- 128 学童の挨拶受けし春堤
宇田川正雄(埼玉県)
- 129 亡き夫へヴァレンタインのチョコレート
須田洋子(埼玉県)
- 130 彼岸会の姉妹共々老いにけり
秋谷静子(茨城県)
- 131 金泥の文字躍動の筆始め
森ふく(千葉県)
- 132 念念の三味鳴り雁木続く瞽女
大木雪浪(千葉県)
- 133 春雷の遠く妻亡き一人の餉
佐藤茂三郎(千葉県)
- 134 鈍行の人生も良し猫柳
安達輝美(山口県)
- 135 轉や衍のごとく湧き立てり
羽根田明(神奈川県)
- 136 初風呂や偽りもなき八十路坂
林多み子(群馬県)
- 137 昨日今日沼の眩しく囁れる
佐伯はる(奈良県)
- 138 御華束の花を飾りし涅槃の会
中村和弘(愛知県)
- 139 鳥帰る終の棲家は何処やら
沢井博(群馬県)
- 140 青き踏む命ふくらむ一歩かな
堀木和子(大阪府)
- 141 若き僧の途切れぬ経や梅ひらく
黒川礼子(静岡県)
- 142 斑雪土黒々と葱畑
夏目満子(東京都)
- 143 病む窓に力届ける福寿草
千代田栄次(東京都)
- 144 ふつつつと梅花ふくらむ今日も暖
秦幸子(福岡県)
- 145 一日をさくらさくらと迷いけり
萬濃その子(千葉県)
- 146 啓蟄の土を穿る鴉かな
小野正光(宮城県)

- 147 春めくや体内時計の捻子をまく
高橋まさ子(宮城県)
- 148 ものの芽の尖り初めたる山路かな
津布久信雄(東京都)
- 149 老介護はや夜も明けなむ祈りつ、
阿部澄江(宮城県)
- 150 共に古い八十路の妻と新茶汲む
阿部徳夫(宮城県)
- 151 春立ぬ穏やか成りし日の光
田中恵美子(山形県)
- 152 掌に冬陽拾ってこぼす深き黻
辻升人(東京都)
- 153 盛塩の崩れ加減や二月尽
佐藤美美子(神奈川県)
- 154 春の池落葉どけると命あり
北野耕兵(千葉県)
- 155 春の雨汝の差しだす篤い文
齊藤安弘(神奈川県)
- 156 クッククックと鳩の恋かな春日和
山下美絵子(埼玉県)
- 157 久方の海の乳いろ鯨群来
野原香雪(北海道)
- 158 散り際のこと燃えをり寒桜
五十嵐勝敏(新潟県)
- 159 雪晴れてチヨコのリボンの花結び
棚橋麗未(東京都)
- 160 見つめて語りかけたき雛かな
上谷すみゑ(神奈川県)
- 161 古雛は亡母の遺品大正雛
延原令岱(岡山県)
- 162 足跡に水にじみくる春の雪
佐藤信(神奈川県)
- 163 ぼつぼつと並びて矯める雪柳
駒場京子(神奈川県)
- 164 ふつ切れて春夕焼に向かひゆく
大窪美代子(大阪府)
- 165 連日の餌食ぶ大群鴨帰る
阿部幸子(宮城県)
-
- 166 枝先につけし水滴春の雨
山岸伊久雄(東京都)
- 167 軒下に父の残せし種袋
横尾恵子(東京都)
- 168 石刻む仏の顔や春の雪
清まさじ(静岡県)
- 169 落葉焚く母の背中の小さくなり
江端秀子(愛知県)
- 170 春うらら形あるものみな干して
清水喜代子(岡山県)
- 171 空耳にオーイと呼ばれ路の臺
近藤美好(新潟県)
- 172 マネキンは早やニューモード日脚伸ぶ
鏡たか子(山形県)
- 173 葉牡丹や笑つて済ませぬ事もあり
吉村充治(埼玉県)
- 174 旅立ちを始発で送る花の駅
青木絹子(群馬県)
- 175 芽吹く風少し和らぐ宝登山
増田信雄(埼玉県)
- 176 黄昏て過去も未来も春の夢
菅井文男(新潟県)
- 177 みんな夢もんしる蝶がとんでいる
暉峻康瑞(鹿児島県)
- 178 かげろうや村に小さな十字の塔
鈴木与平(宮城県)
- 179 目覚むれば風に微熱あり鳥の恋
増本和子(千葉県)
- 180 故郷を忘れキャンプ地春の雪
村上千代(大阪府)
- 181 別れ雪弥彦角田の暮れなづむ
今井勝子(新潟県)
- 182 みみず鳴く写経の梵字遅々として
井口桂山(新潟県)
- 183 大雪の後のひととき涙かな
安木沢修風(新潟県)
- 184 ヘルパーと心通はせあたたかし
大阿久雅子(東京都)
-
- 185 標の音の深さを聞きつ踏む
重原昇(新潟県)
- 186 啓蟄やふつふつなつて鍋の蓋
高松ゆか(神奈川県)
- 187 雪女さはさりながら素つ気なし
山東爺(北海道)
- 188 上げ潮や河口に海猫の集まり来
小山たけし(埼玉県)
- 189 寒星や早逝の子の年数ふ
勢川直美(大阪府)
- 190 蝌蚪の国またいで女盛りなる
堀たかこ(大阪府)
- 191 行平の茶粥を締めに新年会
西川孝子(奈良県)
- 192 鳥けもの眠らせ夜の新樹密
吉田未灰(群馬県)
- 193 あわあわと光溢れて梅真白
木田亜津子(兵庫県)
- 194 鯉の口切り子のひかり春の川
野中よしみ(神奈川県)
- 195 産土の山河まぶしき路の臺
中岡昌太(神奈川県)
- 196 豪雷雨されど処刑遅延せず
加用章勝(千葉県)
- 197 訛声しゃがんで応答雪割草
藤井春三(埼玉県)
- 198 春風や手押車の京野菜
吉田幾代(大阪府)
- 199 ビバルデー流るる窓や合格子
磯部力(新潟県)
- 200 武家屋敷一刀彫の内裏雛
古谷力(東京都)
- 201 雪解水薬師御坂を沿沿と
佐々木トモ(宮城県)
- 202 限りある余生いとほし路のたう
岡村君枝(茨城県)
- 203 枝に満つ玉の雫や春の雨
神一男(静岡県)
-
- 204 仏壇の弟笑顔秋しぐれ
義平弘子(大阪府)
- 205 華やぐは漆の栴や年の豆
小沼宗心(千葉県)
- 206 落椿生き生きとして石地藏
岩村昇(神奈川県)
- 207 春寒し四面楚歌なる国に生き
大下志峰(福井県)
- 208 思い旧る耳朶に残りし卒業歌
中野豊彦(東京都)
- 209 入浴す手術前夜の芽木の風
竹澤茂子(大阪府)
- 210 立話一人加わり日脚伸ぶ
今井久枝(神奈川県)
- 211 春霖や鼻の奥より喉元へ
緑川禎男(埼玉県)
- 212 薄氷の張りしバケツや鎌を研ぐ
須藤恵子(神奈川県)
- 213 盆栽館六寸ほどの長寿梅
石井美智子(埼玉県)
- 214 琴の音に雛も唄う薄灯り
大塚徳子(埼玉県)
- 215 初蝶にわが青春を引き戻す
山崎ゆき(東京都)
- 216 沈丁花紛れし梅の香を惜しむ
長谷部喜代子(大阪府)
- 217 山と川俺は待つとる鳥雲に
杉浦俊雄(静岡県)
- 218 つくしんぼの総立つ原や縄電車
中村正博(埼玉県)
- 219 雪晴や日陰にのこる綿帽子
池本勇(大阪府)
- 220 立春の誕生日のヴィヴァルディ
中山日出子(大阪府)
- 221 掌に丸き石あるうららかな
高垣勝代(大阪府)
- 222 白木蓮拳ひらいて繋ぐ時
久世しずか(埼玉県)

223 明星を仰ぐ通学寒明くる
山崎鶴庵(鹿児島県)

224 春の雨野にも山にも愛注入
石川郁子(埼玉県)

225 咲きはこる主張もせず福寿草
鈴木みえ(長野県)

226 浅き春梢の先に膨らみも
藤田君江(東京都)

227 駒の音大きく聞へ日溜りに
橋本まこと(栃木県)

228 広き野は子供の世界春霞
田野井一夫(栃木県)

229 あしたばの色蘇る緑雨かな
野中信夫(東京都)

230 まぎれなく出そろうい去年のチューリップ
塩田澄子(千葉県)

短歌

231 小沢一郎の強気が好き大嫌い女六人のテーブル政談 佐々木都(長野県)

232 朝起きて空気を吸える喜びを老い増すごとに感じる日々よ
高橋忠雄(東京都)

233 庭石のかけにひそかに咲き初めし片栗に会ふ姉の忌の今日
木暮珣子(群馬県)

234 「日本」という国名を残すか残さないかの論争になつて
梅澤鳳舞(埼玉県)

235 更新の世相春へ足取り一番手傘寿に相乗り免許更新の吉
西山梯三郎(高知県)

236 観山晴れて一片の雲なし十人の児等見守りてマスクを外す
藤原昭三(滋賀県)

237 足音で聞き分けてゐる手術台(ああ、院長が近付いて来る)
宇都宮萬里(静岡県)

238 我が新車初めて雪を被つた夜Uターン空地轍くつきり 齋藤忠弘(千葉県)

239 古庭に祖人を眺めし守桜津波に地共生を断ち消えて 濱田深雪(新潟県)

240 座布団を餅焼くように縁側に並べて法事の夕べを待てる 久保和友(滋賀県)

241 青空に朝一番に感動し雪国の暮しそつとお茶すすり 三浦博(岩手県)

242 しろがねの霜の花咲ききらめける玻璃戸に透ける一天の青
野木宗信(奈良県)

243 雨戸開く妻ゐる先にうぐひすのつがひ平気つばき蜜吸ふ
鈴木清美(愛知県)

244 春の雪一夜かぶりて家裏の竹ことごとく垂れ木戸をふさげる
小林敏宏(長野県)

245 見る人もなきまま枯れし菊の花残照まさに輝く星に 高橋邦子(高知県)

246 長き冬襲う豪雪耐え抜きて誠の春の歓気知るなり 山本敏順(長野県)

247 百歳の歌人の歌集みずみずし老いをうたわず人間をよむ
篠原三郎(静岡県)

248 姿なき犬の足あとたどりつつ娘と歩く北国の冬 若月理依子(新潟県)

249 男きたりぬ鈍器のとき鏝下げ一升の酒ひとはげの雲 北岡晃(兵庫県)

250 玉になり動きをかえてとぶ鳥の朝陽をうけて赤く輝やく
白石政江(群馬県)

251 農嫌ふ子らに用なき農日記資源こみとす五十年分 黒澤正行(福島県)

252 初雪が式拾伍年目五センチの歓喜凝縮ダルマに込めて
佐伯セツ子(香川県)

253 風鐸と何語りしや春の風国分寺の塔そつと見上げる 濱田イサオ(福岡県)

254 渡る橋もどる橋あり七十路の道にまだあるいくつかの橋寒川靖子(香川県)

255 わが命ながらふことを願いをり冬の陽差しを全身に浴び
小暮昭司(群馬県)

256 亡き夫の遺影に声かけ独り居の朝のはじまる日曜日なり
櫻井文子(東京都)

257 今年からメールにしますと添えられて友から届くE十年賀状
桑原謙一(群馬県)

258 むら人に灸をおろして頂きし尼がひとりの米と春菜と 今井温子(奈良県)

259 海に雪砂に腹這う「群青」を聞けばほろほろ悲しみの湧く 土屋喜雄(山梨県)

260 幻日に白む流れに漂いる白鳥の群日毎数増す 田中豊恵(新潟県)

261 池の面たたるる柳のめぐみゆくみどりこそそぐ春日やわらか
鳥居節子(愛知県)

262 若き命ニュージラントに埋もれたり地震災害のおそろしき映像
小島秀雄(福島県)

263 「不動心」成田山主のしたためし扇子送りくる以心伝心の友
今井忠一(東京都)

264 風呂掃除マットにすべり思い切り脊椎骨折三ヶ月 高須孝(愛知県)

265 夕暮れの門に佇む副知事の姿は遠い記憶の中に 北村富士雄(新潟県)

266 僧の持つ大松明はもえさかり修二会はまさにクライマックス
岩崎令子(大阪府)

267 平穏も平凡もひとつ「幸」の一字につつま冬の風さく 吉澤八千代(群馬県)

268 緩ぶのを拒みこの郷翔つ鳥の決して凍らせられぬまなじり
安部龍太(山梨県)

川柳

269 雪よ降れ降れ俺の仕事は除雪業
鈴木章(新潟県)

270 隣組一人もよばれない御婚礼
唐沢孝子(長野県)

271 八百長の語源しらべて豆をまく
南喜美子(千葉県)

272 ありがとうの歌が流れる甲子園
益永克之(福岡県)

273 オニは外やけに大きい妻の声
松田重信(埼玉県)

274 鴛鴦の契り八十路の春迎ふ
佐竹章(宮城県)

275 三分後ニツコリ溶ける春の雪
伊藤嘉枝子(東京都)

276 おやぢの肩車遠い想い出
原田英一(千葉県)

277 銘柄にこだわつて飲む好きな酒
羽田桐柳(群馬県)

278 天空に呼名の響き鳴り止まず
高柳閑雲(愛知県)

279 吉でいいのに大吉が出て迷い
田澤宏(新潟県)

280 お師匠は新潟までを高速化
青木日出男(群馬県)

281 一歩引くことも覚えて停年期
大江秋月(兵庫県)

282 筆も執り雑草も取る指を持つ
久本にい地(岡山県)

283 雛祭り出しばなしが嫁にゆく
竹村穂夫(大阪府)

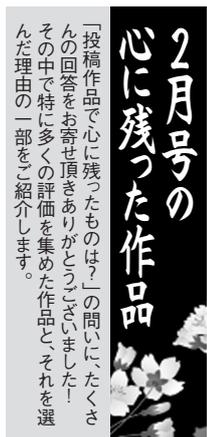
284 三つ編みしてくれた母の手今想う
小山恵美子(大阪府)

285 卯の年の人気直人は人違い
石原学(群馬県)

286 国の為皇太子様摂政を
大川聡(新潟県)

- 287 調味料そう思いたい妻の愚痴 中島久光(岩手県)
- 288 ロスタイムまだ残り火を抱いている 川合笑迷(新潟県)
- 289 読む度にくつすと笑うサザエサン 中嶋秀次郎(埼玉県)
- 290 爪楊枝一本捨てぬ妻のゴ 大岩歌子(岡山県)
- 291 白無垢で嫁ぎ家風の色彩み 桑原清風(群馬県)
- 292 老いの耳駆け抜けてゆく流行語 藤沢健二(千葉県)
- 293 白旗を上手に振るう老い日日 佐野一江(静岡県)
- 294 またですか同じ話して嫌われる 守屋高雄(岩手県)
- 295 椅子ほしいたちあがれないこゝに在り 西條公雄(埼玉県)
- 296 長生きをしていい村も遠くなり 鈴木義雄(福島県)
- 297 好投手好捕手が居て五十年 野田明夢(新潟県)
- 298 難聴と肩を組んでるもの忘れ 藤沢今日民(千葉県)
- 299 別人になつて三面鏡閉じる 黒田るみ子(徳島県)
- 300 秘書君が大臣よりも偉く見え 宮崎正男(群馬県)
- 301 点字打つ今日はらつきよの匂う手で 吉岡れん子(千葉県)
- 302 百点は何人いても百点だ 鈴木青古(茨城県)
- 303 神あらぬ何処かでカメラ見てるらし 富高くにひろ(埼玉県)
- 304 イベントの場所さえ行けぬこたつばん 近藤はつみ(福岡県)
- 305 身の程を鏡の顔に教えられ 嶋田征次(東京都)

- 306 水音の枯れて屍月のもと 長尾俊彦(香川県)
- 307 線香で煙る仏間にしばし座す 藤井北灯(福岡県)
- 308 勝るものひとつ見つけて鬼の首 勢藤隆(群馬県)
- 309 揺れるバスリズムとつてる膝小僧 諸橋文男(新潟県)
- 310 苔払い詣でにゆきて腹上死 諏訪杜夫(埼玉県)
- 311 君らしくはばたけ贈るランドセル 塚本良子(愛知県)
- 312 やつとかめ床屋座れば眉白し 戸田英夫(愛知県)
- 313 豪雪のつらさ味わう二度の雪 奥那於子(大阪府)
- 314 聴診器時間をかける若い肌 山崎一嘉(愛媛県)
- 315 父の分頑張るネコも病み上がり 大橋絵代(千葉県)
- 316 手強きしわが家の鬼は豆も食う 小川よう子(大阪府)
- 317 お見合いにイエスカノーか待つ返事 高井逸代(岡山県)
- 318 取り合えずパンダ外交受け入れて 北川とこ(新潟県)



「投稿作品で心に残ったものは？」の問いに、たくさんのお返事をお寄せ頂きありがとうございます！その中で特に多くの評価を集めた作品とそれを選んだ理由の一部をご紹介します。

《大賞》
9 口喧嘩楽しむ炬燵喜寿傘寿 大橋恒次(新潟県)

・77・80才の御夫婦かと思えますがケンカもコミュニケーション。元氣な証拠 野村牟人(東京都)・お互いに主張し合つて、

ほほえましい場面を想像します 青木涼子(埼玉県)・喜寿傘寿になつても喧嘩相手の居る幸福を実感しました 石井美智子(埼玉県)・喧嘩出来るうちが花。俳句におかしみがあつて良 堀井酔人(茨城県)・口喧嘩しても兄弟だから笑つて仲直り。私達は古稀喜寿傘寿の三姉妹炬燵に入り食べておしゃべりです 大久保アヤ子(東京都)・夫婦共元氣の証 抛でしよう 内河邦久(東京都)ほか

【自句自解】
私の結婚は昔風の許嫁婚でした。親に反発の時期もあつたが、赤い糸に結ばれて半世紀余りが経つた。コウノトリのお恵みにあずかれなかつたが、幸せは中の中。いつしか傘寿の舞台をクリア。家内は喜寿に少し間があるが四捨五入。ささやかながら年金暮し。職無し役無し、呆け防止にと習つている五七五が生き甲斐。炬燵弁慶の二人。たわいないことで始まる口喧嘩も今は楽しい老のラブゲーム。呆け防止のリハビリと納得している。

《俳句》
24 母の忌や惜しみなく切る黄水仙 田中美智子(埼玉県)

・大切に育てた水仙を惜しみなく切り、亡くされたお母様の仏前に飾られる想いがよく伝わります。何よりの手向だと思ひます 北嶋八重(京都府)・「惜しみなく切る」という表現に母への思いがこめられている 安達輝美(山口県)・黄水仙を惜しみなく切るに亡きお母様へのあふれる追慕の思いが伝わってきて私も同じ気持ちになりました 堀木和子(大阪府)・母への慕情が素直に詠まれて好感をもちました 棚橋麗未(東京都)・惜しみなく切る…に母上への思いが切実に

よみとれます 増本和子(千葉県)ほか

《短歌》
258 死に近き母に添寝で息の音を聞きつ つ見護る暮の病院 佐藤源一(新潟県)

・緊迫した介護のひとときがなまなましく一途に詠まれていて心打たれた 木暮珣子(群馬県)・臨場感の生々しさに圧倒されました 大川聡(新潟県)・たまたまなく悲しい極み 山本敏順(長野県)・母上の看病に苦勞様です。心痛お察致します 春口蓮男(静岡県)ほか

《川柳》
301 半分はおれが作った妻の皺 山崎一嘉(愛媛県)

・まったく同感。妻も満足と信ずる。にんげんを詠う川柳。今回の「天」です 松田重信(埼玉県)・人生の着地点へ近づき悟る心づもりは冥府でも幸わせに 諏訪杜夫(埼玉県)・こうしてシワの女王は作られるのです 戸田英夫(愛知県)・半分は妻にあげたい感謝状」と作った事があるから、またその反対みたいでおもしろい 鏡たか子(山形県)・本当は半分どころか八分通りは苦勞かけた為に妻が老いたことへの反省のいたわり 井口桂山(新潟県)ほか

《その他》
6 千年の大樹の芽吹き光満つ 井原穂子(東京都)

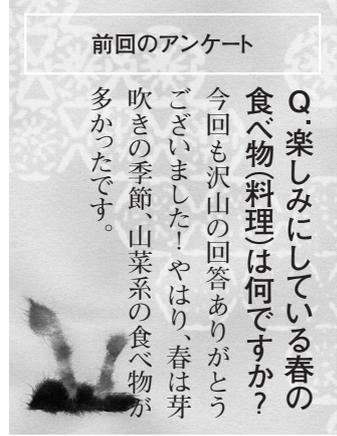
260 わが背に身体あずけて寝入る孫をそつと揺すつて重さ楽しむ 直江秋子(新潟県)

288 世話を焼き食べた気のせぬ蟹の鍋 小山恵美子(大阪府)

※今後もふるって投稿をお願いいたします！

前回のアンケート

Q. 楽しみにしている春の食べ物(料理)は何ですか?
 今回も沢山の回答ありがとうございました! やはり、春は芽吹きの季節、山菜系の食べ物が多かったです。



●ふきのとう

天ぷらが楽しみです松田義登(福岡県)
 当地方では落のとうをバツケと呼んでいます
 田島星景子(宮城県)
 故郷の田んぼの畔でとった思い出

山盛りの落の臺の天婦羅。春の土手で採るのも大変楽しみです
 森ふく(千葉県)
 天ぷらがおいしい 諸橋文男(新潟県)
 ほろろ苦い天ぷらの味が一番です
 藤井春三(埼玉県)

毎年早春の味を楽しんでいます
 井田由利子(宮城県) ほか

・落味噌・味噌和え
 お味噌あえ ふき味噌
 佐瀬チエ子(神奈川県)

酒肴・落味噌 大竹憲弥(新潟県)
 落の臺の味噌和え(大人の味) 中野博夫(埼玉県)

酢味噌和え、落味噌など
 高橋忠雄(東京都)

バツケヤ味噌大好き 阿部幸子(宮城県)
 白味噌和え、天婦羅
 矢野絹枝(東京都)

春といえばふきのとう やはりふき味噌です
 高橋まさ子(宮城県)
 おみそにします 阿部澄江(宮城県)

細かく刻んで油炒めし甘味噌を入れ落の臺味噌にする 水川聖子(埼玉県)
 雪の割れ目から春真っ先の落のとうの落みそが最高 山本敏順(長野県)

ふきのとうを油でいためてミソとかつお節で味付けする 桑原清風(群馬県)
 ほろろがさが脂肪に刺激を与えているように
 鈴木義雄(福島県)

それだけで酒が旨くなるのです(笑)
 堀井酔人(茨城県)

待ちに待った春が来たように思います
 秋谷静子(茨城県)

ふきのとうを刻んでアクを抜き味噌とかつおぶしと混ぜる 桑原謙一(群馬県)
 ことにふきのとうの酢味噌和えには春中三〜四回自分でつくる

針ヶ谷里三(東京都) ほか

・その他
 早春の香りを楽しむ 田澤宏(新潟県)
 ふるりの味 恋の味
 内河邦久(東京都)

少し苦みがあるのが春が来た…冬が終わった気分 美濃部紘三(新潟県)
 自宅の庭先に芽吹いたのを摘んで油でさつといためて食べるのが春の楽しみ

野中信夫(東京都) ほか

●たけのこ

・ごはん
 特にたけのこご飯は大好きです

若月理依子(新潟県)
 たけのこめし 小山たけし(埼玉県)
 筍御飯が好きです。刻んだ筍、人參などだし汁を入れて混ぜて炊き込みごはんがいいですね 神一男(静岡県)

・煮物
 伊豆の別荘でとれるタケノコ(あえもの、煮つけ)近年は猪に荒らされてい

ます
 橋本世紀男(東京都)

筍とわかめの煮たもの
 藤沢健二(千葉県)
 竹の子煮 椋本望生(大阪府)

たけのことフキの煮物 勢藤隆(群馬県)
 若竹煮(筍と若布) 勢川直美(大阪府)
 春のわかめと煮る中山日出子(大阪府)

・その他
 わかたけ汁 檜山とり子(東京都)
 竹の子ワラビ山菜のてんぷらとゴマあえ 寺岡文生(静岡県)

筍、いろいろの料理に。和中華等
 佐野一江(静岡県)

若竹の造り(いつでもとはいかない)若竹煮(薄味に限る) 木下精一(大阪府)

我家の竹林で三月中頃掘る。まだ地中のタケノコを捜し出し食す、タケノコ料理が最高 早川述史(愛知県)
 以前養老溪谷で筍狩吟行会を度々やり

ました

大木雪浪(千葉県)
 煮物、木の芽和え天ぷら等々シーズンではいろいろ工夫して毎日楽しんで頂きます
 堀木和子(大阪府)

筍のキンピラ、妻が作ってくれるこのキンピラは絶品。この女を女房にして良かったなと思えるひととき
 辻升人(東京都)

どんな料理にしてもおいしいと思う
 江端秀子(愛知県)
 竹の子・天ぷら等 煮物とえ物竹の子ご飯若竹煮 鳥居節子(愛知県)

汁に煮メにごはんに。だあーい好き!!
 北川とこ(新潟県)

●たらの芽

・天ぷら
 天婦羅の添物など仄かな苦味に春を感じる
 三ツ木宗一(東京都)

亡き母の味です 名取美枝子(千葉県)
 天ぷらが最高 小林七重(新潟県)
 たらっぽ(たらの芽)天ぷらにします
 阿部徳夫(宮城県)

山の御馳走タラの芽てんぷら
 藤田君江(東京都) ほか

・和え物
 ごまよごしにして食べます。想い出も有ります
 羽田桐柳(群馬県)

和え物が大好き。腰痛で取りに行けず残念
 大橋恒次(新潟県) ほか
 ・その他
 故郷の香、味、子ども時代へのノスタル

A Q U E S T I O N N A I R E

ジー 佐藤茂三郎(千葉県)
櫻の芽のフライ 我が家の前山に櫻の木がある。このフライ得も言えぬ味がする
延原令岱(岡山県) ほか

●つくし

つくしんぼの玉子とじ。川原の土手沿いに自生のつくし取り。子から孫へと変りました
益永克之(福岡県)
つくしの佃煮、田舎の当地ではまだつくしが生えています 竹内進(愛知県)
あえものにしたたり、ごはんに炊き込んだり、子どもの頃から今でもつくし摘みをしています 吉村筑紫(埼玉県)
土筆の卵とじ。おいしいよ

早矢仕邦夫(愛知県)
去年の三月末に取ったツクシを解凍してやつと食べつくしました。今年又近くの土手で取ります 佐伯セツ子(香川県)
土筆のお菓子 廣瀬喜代子(岡山県)
口中に広がる苦味 中田文子(大阪府)
つくしのひたし。町にあるようなないよ
うな 岩永登茂子(大阪府)

近くでつくしの採れる穴場(?)があり、夫が摘んできて煮浸しにして食べます。かわいい春の使者です。ハカマを取るのも楽しい 萬濃その子(千葉県)
いたため 長尾俊彦(香川県)
子供の小さい頃淀川の土手へつくしを摘みに行きはかまをとつてゆでてごま和えにした。ほろ苦いでもおいしかった味を思い出しました 村上千代(大阪府)
子供の頃よく見つけては母においしく作ってもらっていました

大橋絵代(千葉県) ほか

●菜の花

我が家の菜の花(ごまよこし) 栗原啓子(埼玉県)
菜飯、菜の花のひたし 宇都宮萬里(静岡県)

少しにがみがあり、天ぷらにしたり、ゴマあえ、みそ汁、ゆでてごはんにもまぶし、鮭をほぐし、その上に食べるラー油
はいかが 福田和子(東京都)
菜の花の巻きずし 堀田寿美子(北海道)
茎立ちした菜花のおひたし 山岸伊久雄(東京都)

「菜の花コロッケ」我が社の春の定番商品
子クリームをベースにしたこのコロッケは見た目にもキレイでおいしいですよ... 吉村充治(埼玉県)
やつぱり菜の花の煮ものです

小島秀雄(福島県)
おうどんの上に菜の花やカマボコ、しいたけや、あまのりをのせて、春は「桜の花」の次に大好きな私の食べ物です
高須孝(愛知県) ほか

●うど

里山や低山を歩き回って道ばたの「山ウド」を見つけて酔のものに和えて一杯やる。春の香りが疲れた身体を癒してくれる
百花清(埼玉県)

山独活と身欠鯨の酒糟煮、暫く食えネーナア(暖ったまるんだよね。田舎の特級品だ) 齋藤忠弘(千葉県)
独活とその皮のキンピラ(日本酒の肴に最適です) 仁藤ひろじ(埼玉県)
山うどの酢味噌和え

戸田英夫(愛知県)
山独活の和え物や煮物、お酒がすすみます 重原昇(新潟県)
中味はサラダに皮はキンピラに春一番の香りとにがみを楽しみます
岩崎令子(大阪府)

独活の白和え 関口修一(群馬県) ほか

●木の芽

天ぷらにして食す 福岡悟(東京都)
木の芽田楽。串にさした豆腐田楽の上に木の芽を散らした風情が好きです。個人的な好みです
平賀田鶴子(愛知県)

木の芽のおひたし。通草の芽です。ほろ苦く大人のお味とでもいうのでしょうか。ふる里、十日町では五月頃に摘めるのかしら
水落清子(東京都)
通草の新芽のお浸し 相馬竹浪(新潟県)

木の芽和え 新谷雄彦(広島県)
田楽 寺尾令子(東京都) ほか

●草もち

春といえは草餅、昔はお彼岸中に必ず作つて仏に供え親戚にも配つて、又おかしに頂いていました
大岩歌子(岡山県)

思い出のつまみ味 長峰正晴(千葉県)
母の味一回は手作りします
大曽根育代(埼玉県)
摘みとつてきて父が搗いてくれた餅の味
齊藤安弘(神奈川県)

主に蓬餅ですが、家での手造りの良さ

は格別です 吉澤昌美(長野県)
摘んだよもぎと新粉で作るきなこで頂くと香りと色が春を呼ぶ、母親ゆずりの手作りが一番!! 池田岬(埼玉県)

●桜餅

甘党なので、桜餅や蓬餅を美味しい日本茶と共に 紺谷睡花(東京都)
桜の葉の少し塩味のきいた味が中のあること合、絶妙の和菓子です
布目雅之(埼玉県)

孫と作る桜餅、蓬餅すべて手作りで。桜葉は一年塩漬けして
山本直子(大阪府)
今はいつでも食べられますが桜餅が大好きです。桜の塩漬の葉も一緒に食べます 早川レイ子(新潟県) ほか

●その他あげられていたもの
ふき・あさつき・しじみ・せり・アスパラ・うるい・キャベツ・鱒・ちらしずし・鮎・あさり・いかなご・かきな・春菊・しらうおにしん・蛤・ほうれんそう・豆御飯・春野菜・おしん香・でんがく・おにぎり(野山で)・おはぎ・貝類・からしな漬物・川流れ菜菊・くこ・果物・芥子葉・こごみ・こしあぶら・五平餅・桜えびさくら飯・さくら風味のスイーツ・桜湯・サヤエンドウ・すし・酢めし(雛の節句に...)

そば菜・トマト・なすな・のびる春菜・鮎ずし・冬菜・ほたるいか・ホロホロ(岩手の郷土料理)・みつば・野草・わかめ・わけぎ・黍魚子・桜鯛・芯切菜 など

ボタニカルアート展を開催!

皆さまにご好評をいただいております弊社のポストカード(今回も1枚同封させていただきました)。この絵の作者である新潟県五泉市在住、浅野利恵さんの個展が3月3日～16日、ギャラリー泉地にて開催されました。「ボタニカルアート」の語源は、英語のボタニーの形容詞ボタニカル(Botanical=植物の、植物学の)とアート(Art=芸術、美術)が結びついた言葉で、直訳すると「植物学の美術」となります。つまり、植物を観察し、形や色、特色を写実的かつ芸術的に美しく描いた絵のことで「植物の肖像画」と言えるかもしれません。

雪で足元の悪い日が多い中、連日多くの来場者で大盛況。アケビ、スノードロップ、アネモネなど、四季折々の花40点余りの作品のほとんどに、売約済のマークがつけられていました。

後列左が浅野利恵さん▶



夕日俳句大賞 今年も開催します!

年を重ねるごとに、多くのご投稿をいただいています「夕日俳句大賞」。夕日キャンペーンの一環として始まり、今年で9回目を迎えます。夕日コンサート開催後の8月下旬には、全作品を掲載した作品集「夕日を詠みたい区」を発行し、投句者全員に無料で1冊お送りします。

「夕日」「海」にまつわる俳句を2句1組(1000円)で、別紙のチラシにご記入のうえ、いますぐお申込みください。

選者/中原道夫氏(「銀化」主宰)

締切/2011年6月23日(木) 必着

※詳細は、同封のチラシを参照ください。

～山梨県甲府市の土屋善雄様より
短歌大会のご報告をいただきました～

「第十回 方代の里 なかみち短歌大会」

去る3月13日、甲府市立健康の杜センターで約百名の参加をいただき標記短歌大会が盛大に開催されました。春の光が満ち、梅の花が香り、もろこしの白いトンネルが波打つ穏やかな日。主催者、長谷川教育長の「望郷の歌人—山崎方代の歌柄、人生を学び生涯教育に役立てて欲しい」とのご挨拶に続き、米山実行委員長は「方代は短歌を詠むことは「春風のように楽しいものでなければならない」と言っています。当会でも平成25年山梨で開催される国民文化祭を今から支援しましょう」と話されました。また、県立文学館の井上芸芸課長より方代の事績にふれての祝辞もありました。

続く三枝浩樹氏(『沃野』代表・山梨県歌人協会会長)の記念講演では「方代」と「ふるさと」の短歌の魅力や、方代の作品、

・馬の背の花嫁さんは十六歳方代さんのお母さんなり

・丘の上を白いちょうちょうが何かしら手渡すために越えてゆきたり
『迦葉』より

を適切に、ロマンと哀歎を込めて話されました。

その後、表彰式がありジュニアの部1794名(小・中・高校生)の中から、静岡県門池小学校二年生の内村明子さんが文部科学大臣賞に輝きました(一般の部は応募472名)。

・夕食のあかりの下で玉ねぎのスープの光をおさじですくう

今年からの新しい試みとして、方代ゆかりの名所・旧跡を訪ねその後吟行を行いました。望月幸朗の選により、特選三首、入選六首が表彰されました。

・顕ちてくる白い背広に「方代さん」振り向きそうな右左口
内藤博子

閉会の言葉は方代会会長、田中良彦氏。何かしら不安・苦悩の多いこの現代に、皆さんが「方代の短歌大会良かったね、また来年も参加するよ」と口々に話していました。



Q. 楽しみにしている
春の食べもの(料理)
は何ですか?

木戸敦子



蒔の臺に筍にワラビにミズに…あ〜一つになんて絞れない。しかも茹でる、炒める、揚げる何をしてても美味しいじゃないの!
I am Japanese. & 苦みのわかる女です。

古川久美子



たけのこのお味噌汁を食べると、「春だなぁ…」と思う。日本人に生れてよかった!と本気で思う瞬間。あとは、桜を愛でながら一杯…なんてできるといいなぁ。

菅真理子



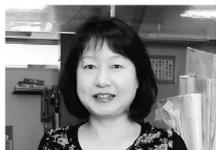
春キャベツ。茹でたキャベツにしょうゆとオリーブオイルをかけていただきます。やわらかい葉がおいしい。ああ、春が楽しみです。

仲由真実



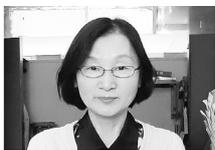
八朔。爽やかで少し苦みのあるところ、さらりとしているところが好きで春の楽しみです。皮を剥いてそのまま食べるのが一番おいしい。

上村真智子



お酒と一緒にうどのぬた、菜の花の辛子和え、ごめひの胡麻和え、若筍煮、たらの芽の天ぷら、筍ご飯、蛤のお吸物、デザートは桜餅と苺のアイスクリーム、考えたら素敵なコースに。

金子ゆり子



山菜、特にワラビ。山に採りに行ってアクだしをしてお醤油かけて食べたり、味噌汁にしたりして頂く。たくさんあったら塩漬けしていつでも食べることが出来ます。

石山由希子



冬の間にたまった疲れやだるさを山菜の苦味ですっきりと、桜もちの甘みでゆったりと。昔の人は偉かった。食べものに感謝しつつ今年もいただきます。

山田千秋



あけびの木の芽。山で採ってさっと茹でて玉子醤油につけて食べます。毎年最初の一口を食べる時、ふわっとひろがるほろ苦さに春の幸せを感じています。

吉田瞳



姫竹。姫竹は皮のまま焼いて食べたり、煮物にしたり。あの香りと食感が春を感じさせてくれます。食す前の苦労なんて忘れちゃいます(笑)

●お客様の「リレーエッセイ」

片目のウンタちゃん

水野喜子（東京都）

ピアニストは、洋の東西を問わず、猫好きが多い。狙った獲物を仕留める時の、見ごとな瞬発力と集中力……。

ウンタがわが家にやってきたのは、生後四十日目の時だった。下北沢に住む若い友人M（作曲家）が、近くの草むらでイモ虫のように動いているのを見付け、アパートに連れ帰ったのである。生後数日位の様子、左目の眼球はなく、お岩さんのように痛々しくはれ上り、血ウミがじくじくたれていたとか。動物好きの彼は、暖かいタオルできれいにしたものの、さてオッパイは？

火事場のバカ力とでも言うのでしょうか彼はとんでもないことを思いついたのである。アパートの玄関入り口に、野良猫ドジ一家が毛布を敷いてもらったダンボールに、のんびり住んでいた。子猫三匹が産まれたばかりだった。そのドジ母さんにオッパイをいただこうというのだ。

それから一か月、ウンタはドジの末っ子として育てられ、血ウミではれていた目も、ドジがなめまわして、すっかりきれいになった。アパートの室内では飼えないことになっていたのだ。

れか里親をと探している時に、主人が仕事の打ち合わせで訪ねたのである。ことの次第を聞き、二ツ返事でお引き受けし、パパのオーバーのポケットに入れられ、わが家にやってきた。

やがて、ウンタに恋の季節が訪れ、妊娠した。息子の初湯をつかわせたブルーの風呂桶に布を沢山敷き、納戸に小さなロウソクを灯して、私と一緒に出産を待った。なんとなく次々に四匹が生まれ、一姫三太郎であった。少しでも子猫に触れようとすると、うわーといって怒り、持ち上げようとしようものなら、私に噛みつく。わが子のが心配で心配で仕様がないうという風であった。ウンタの子に対する並々ならぬ愛情を目の当りにし、私はこの親子を別々にすることはできなかった。里親をお願いしていた友人に、おことわりし、水野ファミリーとして生活することになった。ウンタ一家は、とても仲がよく、いつも行動を共にしていた。

月日は、あつという間にすぎ、子猫は、十三才、十四才、十九才で亡くなった。十九才の長寿で亡くなった一人娘のハツ子ちゃんを最後に見送り、その一年後、ウンタは、老衰で東大病院で亡くなった。二十一才だった。呼吸困難になり、四日間呼吸器をつけていたのだが、主治医からもう無理だし、これ以上つけても、本人が苦しいから……というので、外すことになった。私の腕に抱かれ静かに息を引きとった。主治医から「よくがんばりました。残念です」と

言われ、「ありがとうございます」と言い終わらぬうちに、私の目から滝のように涙が流れ、ウンタに当たった。主治医の先生方は呆然として私を眺めていた。私の体の中のどこにこんなに沢山の涙があつたのか。自分の父親が亡くなった時でさえ、こうではなかった。

今でも不思議である。

主治医から、若い医学生のために、解剖させてほしいとの依頼があり、翌日受け取りに行つた。ウンタは、生きていた時の通りに行つた。大好きだったバスタオルにくるまれダンボールの中で眠っていた。

帰り、息子と植木屋さんに寄り、白い小さな花をつけ優しい香りを放つ小ミカンの木を買つた。四匹の子猫の眠る隣りにウンタを埋め、小ミカンの木を植えた。

十年目になる今年は、びっくりする程実り、柿火花ならぬミカン火花と言いたい程である。毎年十二月になると近所の方々や、友人知人たちにお裾分けして喜ばれている。わが家では「ウンタみかん」と呼んでいる。

ウンタはわが子を全部見届け、自分が天に召されても、毎年ミカンになって私たちに会いにきて喜ばせてくれる。

本当に片目のウンタちゃんは、立派な猫であつた。ウンタありがとうね。



新潟ぶらり

＊新潟空港



静かな空港である。人もそれほど多くなく、落ち着いた穏やかな雰囲気。空港にしてはちよつとめずらしいと思う。新潟市の海浜部に位置し、北側は日本海、東側は阿賀野川の河口部、西側は信濃川河口部付近に各々面している。

新潟駅からはリムジンバスで二五分程度。弊社からも車で一〇分程度。この空港が好きで、旅行の用がなくてもなんとなく足を運んでいる。空港ビルの四階には見学・送迎デッキがあり、発着する旅客機や作業車輛の活躍を間近に見ることができる。ここに居ると、非日常という感じがしてうきうきする。身近なところに非日常があるなんて、やっぱり空港はいいなあと感じる。

新潟空港では現在、国内線は札幌、

名古屋（小牧・中部国際）、大阪（伊丹）、福岡、沖縄、国際線は、ハバロフスク、ウラジオストク、ソウル、上海、ハルビン、グアムと航空路で結ばれている。ロシアのマイナーな空港があるのが、特色だ（新潟はロシアとの結びつきが強く、新潟東港周辺ではロシア語の看板も多く見られる）。

伊集院静が（これは電車であったが）、「電車に乗るたびに、一人車窓を眺めている人を見かけると、できることならここを躍る電車行であつてほしいと思う。私が車両の中で静かにするのをごろがけるのは、そこに哀しみの帰省をする人がいるはずだ」と思ふからだ。そう考えると電車は人々の人生を載せて走っていると、言つても過言ではあるまい。」

と「父の帰省」で書いていた。行き交う人が、いまどんな気持ちで旅をしているのか。どんな街を見てきたのか。お出かけなのか、お帰りののか——。先日飛行機に乗った際、被災された方へお見舞いのアナウンスが流れた。荷物受け取り場所では、被災地から避難してきた方が、航空会社のスタッフに介助されて荷物を待つていた。空港も、思いが行き交う場所であることにいまさら気付いた。この度の震災で新潟に来られた方も多い。新潟が、訪れた人を癒す、元気づけるところであつてほしい。いや、新潟でも、どこでもいいから、どうかゆつくり元氣を得てほしい。そしていつか、楽しい旅行ができる日がきてほしいと心から思った。（菅真理子）

＊Craole 蔵織

気軽に外に出て散歩をしたくなる季節。歩くだけでも気分がよくなる春だが、どこか休憩できる場所があればもっと楽しくなる。

コーヒーもいただけるギャラリー「蔵織」は、そんな春の散歩の折にぜひ訪ねてみたいところだ。

「蔵織」は、もともと住宅として建てられ、はじめはある新婚のご夫婦が住まれたのだという。明治四三年のことだ。それから時を経て、二〇〇六年に今のご主人の手に渡つたということだ。

建てられてから実に二〇〇年以上が経っている。何人ものご家族の思い出が、この建物には残っているのだろう。中に入ると、清潔でスタイリッシュに整えられた空間の中に、生活の匂いや温もりがどこどこに残されている。

正面には小さな池がある。雨水を利用したもので、中には近所の方々のマイ金魚やメダカが泳いでいるそう。私はうっかり見逃してしまつたが、また今度お邪魔したときの楽しみにしておこう。玄関左手の和室には部屋の中央に卓袱台があり、ギャラリーを訪れた人々を出迎える。畳に腰を下ろして本を見ていると、あまりにも落ち着きすぎてギャラリーに来ていたということも忘れてしまふそう。大通りに面した窓辺には上品に花や小物が飾られていて外の喧嘩も気にならない。窓辺は部屋から一段低く、土間になっている。床に畳が一枚置かれている心づかいがありがたい。

メインのギャラリーは主に蔵で展示されている。蔵の二階にあがると、まず目についたのが太い梁。頑丈なこの梁が一〇〇年もの間、この建物を支えてきたのだろう。イギリス人アーティストによるペーパーコラーージュ作品展（現在会期終了）が行われていた。蔵にもさりげなく花が飾られ、気持ちのよい香りにつつまれて作品鑑賞を楽しめた。「蔵織」の各部屋には筆筒が置いてある。高さのあるものから低いものまで、一〇〇年の間ずっとそこにあつたのだろうか、建物になじんでいる。そして今、その筆筒の上には手編みの靴下や、本、小物などが配置されて人々の目を楽しませている。「蔵織」は白山公園から歩いてすぐのところにある。春の風を楽しみながらまた訪ねてみたい。（仲由真実）



■ギャラリー蔵織
住／新潟市中央区西堀前通
1番町700番地
☎／025-211-8080
開館時間／11時～18時
休館日／水曜日



詠み人の『リレーエッセイ』

この期に及んで母のこと 高田正子

ここに飴色になった古い箱がある。大きいが浅い箱で、細長い側面に「コンドル印ガス卓上七輪」とある。たぶん据え置きタイプのガス台の箱だ。中には小学生の作文や中学生の夏休みの課題がぎっしり入っている。

この箱は、去年岐阜の実家をたたんだときに、押入れの奥から出て来た。もうひとつ紳士用スーツの箱も一緒にあつて、そちらには弟のものが入っていた。そう「七輪」の小中学生は私だ。

すっかり忘れていた悪事をひとつひとつ思い出すようで、十数cmの深さの箱なのに、底まで見ることができない。丁寧な納められたことがひと目でわかるたたずまいは、そのまま母の日々と重なっている。何をするにもぞんざいな娘がそれに触れると、ばちが当たるような気もする。母は去年の八月に亡くなった。ひとりにしておけない父が残り、姉弟は家をたたむことを決めた。母の着物、化粧品、縫いかけのブラウス、編みかけのセーター、……実家に寄りつかなかった娘は、新幹線にバスのように乗って通い詰め、母亡き後に母の匂いにまみれた。だから、生前よりも触れあっている気分だったに違いがない。年末に決着をつけたときも、母がきれいに使ってきた家を、きれいなままに閉ざせた思いがむしろ強かった。

喪の家を枯れゆくものひとつとす 正子

喪の家をたたんでしまふ冬至かな

三月十一日、恐ろしいことが起きた。今なお、想像を

高田さまの2回目のエッセイは、お母さまのこと。画像で、新聞で見る瓦礫の中にある影しい数の箱。一つ一つにこれらの想いが。想いは、時空を超え、永遠に手渡されるものであつてほしいと願います。

超えることが次々に起き続けている。命だけでなく、あまたの「七輪の箱」が流された。切ないことである。

連日伝えられるニュースを見ながら、家の片づけを先延ばしにしておればよかつたと思つた。そうしていたら、その日から住める家がひとつ、空いていることになつたのだ。

母の声がよみがえる。離れて住んでいると不都合なことも多いけれど、どちらかが無事なら受け入れてあげられるじゃないの。そのときは、お母さん、自分の所は絶対大丈夫と思つてるでしょ、と返した愚かな娘であつた。

ある夜、関西に住む友人から電話があつた。次女の幼稚園（於大阪）時代のママ友である。「困つてるんじゃない?」「当分平気。在庫一掃のいい機会だよ」。

翌々日、箱がひとつ到来。中から、パックのご飯、イワシの缶詰、昆布茶、電池不要の懐中電灯、などなど。昨日一日駆け回つて集めてくれたに違いない。ありがたう。

そして隙間から出てきたトレットペーパーが二個。それを見たとき、私は初めて、母の心配が身のまわりから消えていることに気づいた。箱の中身がごそつかないように、と母もよくそうやって荷を作つてくれた。あわててふるさとの方角に耳を澄ましたが、しーんと闇が広がるばかり。

「ごめんなさいとありがたうを唱えながら、謙虚に暮らそうと思つ。恩返しはきつと、次の世代にする。

2011. 4. vol.55 (2011年4月10日発行/隔月発行)

●発行・印刷/株式会社ミュージズ・コーポレーション

喜怒哀楽書房

株式会社ミュージズ・コーポレーション

〒950-0801 新潟市東区津島屋 7-17

TEL 025-250-9555 FAX 025-250-9550

☎ 0120-819-395

e-mail odp@eseihon.com / HP <http://www.eseihon.com>

編集後記

毎日、毎月、人は変化し確実に歳を重ねているのに一年前の写真を使い続けるなんて真実を映していないじゃない…というわけでもないのですが、スタッフの写真を毎回変更することとしました(パンパカパン!)。衝撃と恐怖に翻弄され、喪に服したような3月でした。いろんなことが今までどおりにいなくなり、みんなが不安の中になりました。適切な言葉が見つかりません。ただ、少しでも自分たちができることを。笑顔で元気出してこー!!それが私たちの気持ちです。被災地の方たちのことを思う時、私たちが頑張れない理由はどこにもありません。(木戸敦子)